



ウチョウラン 富樫信平 画 1987.7.10 山形県小国町産

ウチョウラン

Orchis graminifolia

〈ラン科〉

山地の湿った岩壁などに着生する多年草で、国内では本州関東以西から九州に分布し、県内ではごく稀に分布が見られる。花色には紫、白、桃などあり、花形にも変異が多く見られる。花は6月から8月ころにかけて咲く。

ランの仲間は園芸的な観賞価値が高く、園芸目的の採取により野生下での個体数が減っている。ウチョウランも減少が著しく、新潟県及び環境省の絶滅危惧種に指定され、100年後には絶滅する確率がほぼ100%と試算されている。

失ってからでは時既に遅しである。野生の植物は、山野にあるからこそ魅力が存分に発揮されるのであろう。

(永井明子)



ジョオウヤシ (*Arecastrum romanzoffianum*)
熱帯ドームの中でいちばんの高さを誇る。高さ30mあるドームの天井に届きそうな勢いで成長している。



ココヤシ (*Cocos nucifera*)
ココナツでなじみの深いヤシの一種。果実のない果皮に接する脂肪層を削り取って絞ったココナツミルクは東南アジアの料理に広く使われる。



トックリヤシ (*Hyophorbe lagenicaulis*)
幹の下部が太く、名のとおり徳利のような樹形をしている。



ユスラヤシ (*Archontophoenix alexandrae*)の木肌
横に入るしま模様状の凹凸は、葉が剥がれ落ちた跡。

ヤシの仲間が属しているヤシ科は200属2,600種からなる大きな科です。当園の熱帯ドーム温室では、なじみの深いココヤシ (*Cocos nucifera*) のほか、ドーム内の植物では一番高いジョオウヤシ (*Arecastrum romanzoffianum*) やダイオウヤシ (*Roystonea regia*) など10種以上のヤシの木を見ることができます。

ヤシ科の植物は、食用のほか、建築材や衣服、装飾品など多くの目的に利用されています。日本の温かい地方に自生しているシュロ (*Trachycarpus fortunei*) などもヤシ科の植物で、縄の材料として利用されています。

枝分かれせず、茎がすらりと立ち上がり、上部に大きな葉を数枚広げている特徴的な樹形は、南国を連想させてくれます。 (橋本 永)



メタセコイアとラクウショウ | 園地

このふたつはいずれもスギ科の落葉する針葉樹で、樹皮が縦に裂けてはがれることや凹凸のある幹のようす、葉が枝(側枝)にならんで付いて羽状になり、秋に褐色に紅葉して側枝ごと落ちることなど共通点が多く、よく似ています。

植物園では、どちらも大きく育っています。

メタセコイアは園内各所にあり、見つけやすいのはボタン園の奥に並んでいる4本です。ラクウショウはボタン園側とシーボルト園付近の池のそばに植えてあります。

ふたつの大きな違いは、一見同じに見える葉のようすです。メタセコイアの葉は対生し、ラクウショウの葉は互生します(写真3参照)。

また、ラクウショウは、独特の形をした呼吸根を地上に出すことが知られています。呼吸根は、湿った土地に適応したこの木ならではの特徵で、乾燥した場所に植えた木や若い木ではあまり発達しません。当園のラクウショウにも呼吸根を出しているものがありますが、草の陰に隠れるほどなので、時々草といっしょに刈られてしまいます。木のまわりを注意して歩いてぜひ見つけて下さい。(林 寛子)

メタセコイア:スギ科メタセコイア属 中国原産
ラクウショウ:スギ科ヌマスギ属 北米~メキシコ原産



写真1.メタセコイア



写真2.ラクウショウ



写真3.葉の比較(左:メタセコイア 右:ラクウショウ)



写真4.ラクウショウの呼吸根

企画展示

食虫植物展

7/1(水) - 9/6(日)

毎年、多くの家族連れでにぎわう食虫植物展。

虫を捕まえて食べてしまう生態に加えて、虫を捕らえるために進化したユニークな形の葉。このように身近な植物にはない特徴が、子供たちの人気を集めている理由でしょう。

ハエトリソウが素早く葉を閉じて虫を捕らえる様子や、モウセンゴケが葉からベタベタする粘液を出し、虫が逃げられないように葉で包み込んでからめ捕る様子は、子供たちにとって楽しく不思議な発見となるでしょう。今回は食虫植物に捕まえられる体験をしていただきます。虫になった子供たちが動く巨大ハエトリソウ模型に食べられたり、モウセンゴケのベタベタに捕まったり、ハエトリソウなどが生息する湿地帯を体感するなど家族みんなで楽しめます。

食虫植物は虫を食べることで一般にたいへん強い植物というイメージがありますが、実際は他の植物が生きていけないような養分の少ない土壌などのきびしい環境でも生きていくために進化した植物の中の「弱者」です。そんな植物がなぜ虫を捕るようになったかなども解説しています。



企画展示

ここんとうざい 古今東西 植物ものがたり

9/9(水) - 11/8(日)

9月初旬から始まる秋の展示は、その年の話題性などを取り入れ毎年テーマを変えて企画しています。昨年は、紫式部が源氏物語を執筆してから千年を迎えたことから、当園でも「源氏物語と植物展」を開催し、物語に登場した植物の解説を行いました。本年は、世界各地の植物が登場する物語や民話などを紹介します。

ギリシャ神話、世界の童話や民話、各地の伝承、新潟の言い伝えなどが題材です。

大人のみなさんも子供の頃に絵本で読み、聞いたことのある「うんとこしょ どっこいしょ」でおなじみの「おおきなかぶ」や、雲の上まで届く「ジャックとまめの木」などの一場面を再現します。このほかにも「飴買って笹くれる」など植物に係わる新潟のことわざなども紹介します。とても楽しい展示になりますので、ご家族づれでご来場ください。

NEWS 1

夏休みは植物園で体験しよう!

夏休みに入ると植物園は様々な教室で賑わいます。植物や自然にふれあいながら学ぶ「花と緑の教室」、自然の素材を使った作品づくりの「体験教室」を開催します。日程などは裏表紙をご覧ください。

(永井明子)



花と緑の教室

参加希望の方は、電話予約が必要です。開催日により、受付日が異なりますのでご注意ください。
※写真は昨年の花と緑の教室のものです。



● 標本教室

● 食虫植物教室



● かんたんクラフト教室

● 木とふれあう工作教室

体験教室

今年も大好評の教室が開催されます。開催時間は10時～15時。参加は随時受け付けますが、時間帯によっては混雑することもありますので、あらかじめご了承ください。
※写真は昨年の体験教室のものです。

● アメリカンフラワー教室

NEWS 2

龍生派いけばな野外展 開催!!

当園は、いけばなの龍生派が主催する「ときめいて新潟2009龍生派いけばな野外展」の会場となりました。

龍生派は華道の流派の一つです。「華道(いけばな)」といえば私たちはふつう、室内でお花を、と想像します。しかし、「野外展」の名にあるとおり、この展示

では、屋外という開かれた空間で、しかも植物に限らないさまざまな素材をつかって作品がつくれます。また、風景やそこにあるもの、音や香りなどにインスピレーションを得て場所を選び、創作するため、作品だけではなくそれをとりまく空間全体を芸術作品としてとらえるものとなります。今回は園内のほとんど全域を自由におつかいいただくことになっており、当園としても楽しいイベントになっています。

会期中は、全国からの出展者のみなさんがつくりあげる150点を超える作品が、広い園内のあちこちに展示されます。真夏の植物園でどのような作品が展開されるのか、ぜひ見に来てください。

(林 寛子)

会期 ● 平成21年8月1日(土)・2日(日)

*7月31日(金)は公開制作の日。制作風景を見ることができます。



1997年に福島県で行われた野外展の様子

NEWS 3

園地散策のおともに!

現在、seedPod(愛称:シーポ)による温室内の植物解説を行っています。今年の4月から園地の植物解説も始めました。園地では、ポタン園やツツジ園、宿根草花壇など春から秋にかけてさまざまな花が園内を彩り、また秋になれば紅葉や艶やかな果実を楽しむことができます。広大な園地の散策にシーポは強い味方です。

そのほか、園地で見ごろをむかえる植物を紹介するチラシ「植物園をたのしんじゃう」を発行しています。当園の案内員が植物の特徴や歴史などの解説を加えて園地の魅力をお伝えします。seedPodは入館券売り場、花と緑の情報センターにて無料で貸出中(身分証明書が必要)。「植物園をたのしんじゃう」チラシは各建物内のパンフレットスタンドにありますので、お気軽に手にとってご覧ください。

(永井明子)

*seedPodの動画は、当園のHPからダウンロードすることもできます。



「植物園をたのしんじゃう」チラシ



園地の植物解説も行うseedPod



「新潟のくだものとコンフィチュール」教室



NEWS 4

植物と食文化講座

当園では新潟県の花の歴史について調査を進めてきましたが、野菜や果樹栽培も長い歴史があり、そこで育まれた独自の品種や文化があります。そこで今年ふるさと新潟の野菜、果樹に関する連続講座を開催し、歴史や品種の紹介、品種保存の重要性、また利用について皆さんと考えることとしました。

講義形式の堅い講座ではありません。新潟の第一線で活躍する食の専門家の楽しいお話、市の見学、また地域の野菜や果樹を使った食事を通じて、新潟の植物と食文化を知ることができます。

第1回の三条市のHAPPY LIFE CAFEで行われた「新潟のくだものとコンフィチュール」は大好評でした。7月10日に新潟市(旧豊栄市)のノラクチャーナで行われる「新潟の野菜とイタリア料理」も好評につき、予約を締め切りました。

第3回は島根大学の小林伸雄先生、瀬古技術士事務所の瀬古龍雄先生を講師にお迎えして在来植物やその重要性、利用について考えるシンポジウム「食べて楽しむ新潟の在来植物」を開催します。地域の食材を使った試食もありますので、是非ご参加ください。(倉重祐二)

日時●平成21年9月19日(土) 13:00~15:30

会場●県立植物園研修室

定員●50名 参加費●500円(植物園温室入館券付)

受付期間●7月14日~8月30日 植物園まで電話にて予約(0250-24-6465)

新潟の植物

オオシラヒゲソウ

Parnassia foliosa var. *japonica*

ユキノシタ科



自生地の様子(手前)

植物がもつさまざまな形態や生態には、解明されていないことがたくさんあります。しかし地球上には、謎が解かれるどころか発見されることさえなく失われていく植物もたくさんあります。ここで紹介するオオシラヒゲソウも新潟県では分布域が限られ、絶滅のおそれのある植物のひとつです*。

オオシラヒゲソウは、日本海側にのみ自生する「日本海要素」の植物で、秋田県から兵庫県に分布します。本州から九州の山地に広く分布するシラヒゲソウの変種で、花や葉がシラヒゲソウより大型になります。花卉の先は細かく分かれてフリンジ状となり、この名前の由来となっています。

この植物が属するウメバチソウ属の特徴として5本のおしべの間に仮おしべをもつことが挙げられます。また、ほかの花と受粉するためと思われる次のようなしくみがあります。

- ・仮おしべは花が開いた時から虫を呼び寄せ続ける
- ・5本のおしべは成熟すると1本ずつ開いていき、めしべから離れる
- ・めしべは、その花のおしべより遅れて成熟する

このように、それぞれ巧みなしかけにより子孫を残そうとしている植物が、人間の生活がもつて減少していると思うと残念でなりません。

(林 寛子)

*新潟県の保護上重要な生物(2001年 新潟県)による

新潟の天然記念物

鳥屋野逆ダケの藪

新潟市が公有化し、整備が進められてきた「鳥屋野逆ダケの藪」が今年5月から公開されました。逆ダケは、新潟市中央区にある枝が枝垂れるハチク(*Phyllostachys nigra* var. *henonis*)で、大正11年に国の天然記念物に指定されました。親鸞聖人の越後七不思議のひとつで、言い伝えによると、聖人が当地で布教した折に竹杖を地面にさしたところ、枝が逆に茂ったとされます。

早速、出かけてみました。びっしりと茂った竹林には、ウッドチップが敷き詰められた遊歩道があり、ベンチも置かれていました。枝垂れる「逆ダケ」には青いテープで印がつけられていますが、昔の絵に描かれたような真下に伸びているものはほとんど見られませんでした。歩いているとまるで迷路に迷い込んだようで、風で竹がカラカラと鳴り、葉がサラサラと音を立てて、住宅に囲まれた場所でありながら、昔年の竹林かくありしかと思わせるものでした。

さて、古い文献を調べて見ますと、江戸時代の百科事典ともいえる『和漢三才図会』(寺島良安 1712年頃)の越後の項に「紫竹林」の記述がありました。親鸞聖人が紫竹の杖を地面にさし、わが教えが正しければ、竹が繁茂し、枝が逆さに生えるであろうとおっしゃったとあります。ほぼ同じ内容の話しが『越後名寄』(丸山元純 1756年)にもあります。ここではさらに、勢いよく生えていて容易に引き抜くことができるのは杖をさして生じたものだからであることや、淡竹(ハチク)という種類であることが記されています。時代は下って江戸末期の『越後土産』(紀興之編 1864年)には竹林が茂ったことは省かれ、枝葉が逆さに茂ったことのみが書かれています。

「紫竹」とは冬にタケノコが出るカンチク(寒竹)の別名ということですので、逆ダケのハチクとは全く別のタケの種類ですが、当時は名称が混同されていたのかもしれませんが。また、新潟市の「紫竹」がつく地名も逆ダケの場所に近いことから、なにか関係があるのかもしれませんが。

(倉重 祐二)



ほぼ枝が地面に水平に出た逆ダケ



鬱蒼とした竹林の遊歩道

- 所在地:新潟市中央区鳥屋野1丁目
- 開園期間:1月4日~12月27日
- 問い合わせ先
新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課
電話 025-226-2580

友の会通信

●総会・シンポジウム開催

5月4日「植物園の日」に友の会総会と講演会を行いました。先日、ご報告したように総会では、友の会発足以来御尽力いただいた藤井嘉孝さんが幹事を退任し、新たに新潟県花つばき協会会長の田中秀明さんに役員として御協力いただくことになりました。そのほか、会のイベントの運営方法についていくつか意見が出され、今後、事務局で検討していくことになりました。

総会のあと、県立植物園倉重祐二副園長より「のとキリシマツツジ～日本一の江戸キリシマツツジの群生地～」と題した講演をしていただきました。ツツジの流行の変遷や、江戸時代を代表するキリシマツツジの起源について遺伝子レベルでの調査を行っていることなど、古い写真や資料、また能登地方の民家に残る巨大なキリシマツツジのスライドを交えてお話して下さいました。新潟県はツツジ属の植物であるシャクナゲ、アザレアの日本一の生産地であり、県立植物園でも新品種作出等に関連してこれらの調査が将来活かされるであろうとのこと。今後の研究成果を期待しています。



倉重副園長の講演会

今年度の計画

- 湯沢植物観察会 8月22、23日(湯沢方面)
- 秋の植物観察会 9月下旬(村上方面)
- 植物園まつり出店 9月20、21日(植物販売)
- キノコ観察会 10月18日(日)
- クリスマス交流会 12月23日(祝)

●事務局打合せ会を行いました

5月31日(日)13:30から第1回事務局打合せを行いました。総会で挙げられた植物園まつりの出店のことや植物観察会、ホームページのことなど今年度の活動について話し合いました。

今回は9名の参加がありましたが、今後実際に活動をしていくには、まだ人が足りません。今後、定期的に毎月最終日曜日の13:30から会を開きたいと思います。都合のつく方は、お茶飲みだけでも結構ですので、ご参加ください。

●植物園まつりについて

総会でも挙げられた、販売苗の育苗用の用土の件や植物園まつりの店番の方法などを検討し、育苗用の用土(鹿沼土、赤玉土、硬質ポットなど)を植物園事務局で用意することにしました。育苗し、出品してみたい方は事務局までお問合せ下さい。また、まつり当日の店番に協力して下さる方、その事前準備に協力して下さる方も大募集します。詳しいことは、追ってご連絡します。



植物園まつりの出店の様子 今年度は過去最高の売上げを記録しました。

●植物観察会について

今年度の観察会の予定などを話し合いました。8月22、23日に湯沢方面、9月下旬に村上方面で観察会、10月18日にキノコ観察会を行うことにしました。近くになりましたら、またご案内を送付いたします。

●ホームページ開設について

ホームページについては、パソコンに明るい強い味方が登場し、開設に向けて準備を始めています。できるだけ早くホームページを開設できるようがんばりたいと思います。

新潟県立植物園 友の会 会員募集

友の会会員を常時募集しておりますので、興味のある方は植物園までお問合せ下さい。

会員特典

- 観賞温室入館料無料(個人会員、ファミリー会員)
- 観賞温室無料入館券10枚(賛助会員)
- 植物園だより、友の会ニュースレター、各種イベント案内の送付
- 研修旅行、企画旅行などイベントへの参加

年会費

- 個人会員..... 2,000円
- ファミリー会員..... 2,500円
(同居の家族は何人でもご利用できます)
- 賛助会員 一口..... 10,000円

賛助会員 <わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています> 敬称略

●齊藤圭子 ●藤田秀雄 ●小林測量株式会社新発田支店 ●株式会社アート ●株式会社原常樹園

展示

観賞温室第2室 企画展示

- 7月1日(水)～9月6日(日) 「食虫植物展 みんなで楽しむ食虫植物」
- 9月9日(水)～11月8日(日) 「古今東西 植物ものがたり」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 7月12日(日)まで 「花時計」
出展:日本折紙協会新潟支部「はまなす」
- 7月14日(火)～8月2日(日) 富樫信平植物画展「花を描く旅」
- 8月4日(火)～8月16日(日) 「森の素材と木でつくるおとぎの森の風景」
出展:お山の森の木の学校
- 8月18日(火)～8月30日(日) 「中村澄子と紙ちぎり絵展」
出展:中村澄子と紙ちぎり絵教室
- 9月1日(火)～9月13日(日) 「博物館実習生展示」
- 9月15日(火)～9月27日(日) 「neziのへんてこ植物園」

観賞温室第3室 特別展示

- 7月28日(火)～8月9日(日) 「大輪朝顔展」 協力:大和会
- 8月25日(火)～8月30日(日) 「変化朝顔展」 協力:新潟変化朝顔同好会

その他の展示(屋外無料エリア)

- 8月1日(土)・2日(日) 「龍生派いけばな野外展」

教室

花と緑の教室 会場(または集合場所):花と緑の情報センター

※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 7月10日(金)9:30～12:00※受付期間:6月2日(火)～28日(日)
「植物と食文化② 新潟の野菜とイタリア料理」
定員:30名 参加費:1,500円 会場:ノラクチーナ(新潟市北区葛塚市場通り)
- 8月1日(土)・22日(土)10:00～15:00「身近な植物の力を感じよう」
定員:40名 参加費:無料 ※2回連続講座、小学校高学年以上
- 8月14日(金)19:00～19:30 ナイトツアー「夜の熱帯植物を見てみよう」
講師:橋本永 定員:15名 参加費:無料(但し温室入館料が必要です)
- 8月30日(日)13:30～15:00「変化朝顔の楽しみ方」
講師:石川昇(新潟変化朝顔同好会) 定員:30名 参加費:無料
- 9月19日(土)10:00～11:30「シリーズ家庭菜園③ 秋から冬の作業」
講師:田中良明(県立植物園) 定員:20名 参加費:無料
- 9月19日(土)13:00～15:30
「シンポジウム 食べて楽しむ新潟の在来作物」
定員:50名 参加費:500円(温室入館券付)※受付期間:7月14日(火)～8月30日(日)
- 9月24日(木)10:00～11:30「ガイドツアー 雑草観察会」
講師:田中良明(県立植物園) 定員:15名 参加費:無料

ツアー

案内員が熱帯植物ドームの植物をわかりやすく説明します。解説付きの見学は満足度倍増!ツアーに参加された方には記念写真プレゼントもあります。
①10:40～②14:40～(土・日・祝日は13:40からも実施)当日温室発券カウンターにて受付・定員制
また、ご自分のペースで解説付きの見学をお楽しみになりたい方には、携帯音楽プレーヤーiPodを使った展示解説「seedPod(シードポッド)」もご用意しています。温室の入館券売場でプレーヤーを貸し出していますので、ぜひ一度お試しください。(無料・身分証明書必要)

相談コーナー

専門相談員の片山芳宣先生がわかりやすくお答えします。
●相談受付日:毎週水曜、日曜 ●ご相談は直接相談コーナーへ。
※7月から相談コーナーを情報センターへ移設しました。
電話でも受け付けています。専用電話:0250-24-6437

花と緑の教室特別企画●夏休み親子教室

- 会場・集合場所:花と緑の情報センター
定員:各回小学生20名(保護者の同伴必要)
※参加希望の方はお電話でご予約下さい。
〈7月12日(日)9:00～ 電話受付開始〉
7月26日(日)10:00～11:30「食虫植物を育ててみよう」
講師:小坂幸生(新潟食虫植物愛好会) 参加費:500円
8月6日(木)10:00～11:30「食虫植物を育ててみよう」
講師:田中良明(県立植物園) 参加費:500円
〈7月26日(日)9:00～ 電話受付開始〉
8月8日(土)10:00～11:30「押し花をつかった作品づくり」
講師:永井明子(県立植物園) 参加費:無料
8月9日(日)9:30～11:00「身近な植物、生き物とふれあおう」
講師:石川小百合(森林インストラクター) 参加費:無料
8月20日(木)9:00～12:00「植物標本をつくってみよう」
講師:永井明子(県立植物園) 参加費:無料

体験教室 会場 観賞温室3室ほか(入館無料エリア)

- 10:00～15:00 ※当日随時受付 ※受講料は変更になる場合があります。
8月7日(金)～8月9日(日)「チビッコ体験教室」
受講料:300円～500円 藤春工房
8月8日(土)・9日(日)「ハーブで作ろう!楽しもう!」
受講料:500円～1,000円 ジャパンハーブソサエティ新潟支部
8月11日(火)～8月16日(日)「夏休み木とふれあう工作教室」
受講料:400円～3,000円 お山の森の木の学校
8月15日(土)・16日(日)「夏休みアメリカンフラワー教室」
受講料:400円～800円 アメリカンフラワー
8月21日(金)～8月23日(日)「チビッコ体験教室」
受講料:300円～500円 藤春工房
8月22日(土)・23日(日)「夏休みかんたんクラフト教室」
受講料:500円～1500円 工房竜
8月30日(日)「和紙ちぎり絵体験教室」
受講料:300円～1000円 中村澄子と紙ちぎり絵教室

夏休み夜間開園

8月14日(金)・15日(土)・16日(日)は20:30まで温室の閉館時間を延長します(最終入館20:00)。夜の熱帯植物ドーム内では、サガリバナやクリナムギガスなど夜に咲く花や香りを放つ花を楽しむことができます。暑さが和らぐ時間帯にごゆっくりご観賞下さい。

パリのチューバアンサンブルコンサート
8月15日(土)19:00～20:00

会場:観賞温室第3室 レストラン(入館無料エリア)
金管楽器チューバ、ユーフォニアムによる演奏です。椅子席をご希望の方は、お電話でご予約ください。また、予約なしでも観賞いただけます。

秋の植物園まつり

9月20日(日)・21日(月・祝)9:30～16:00

会場:エントランス広場 他
・バックヤードツアー ・ミラクルフルーツ試食会
・自然素材を使った体験教室 ・ツリクライミング体験会
・物販(植物・食品) ・須磨佳津江緑花講演会 など

●観賞温室利用案内

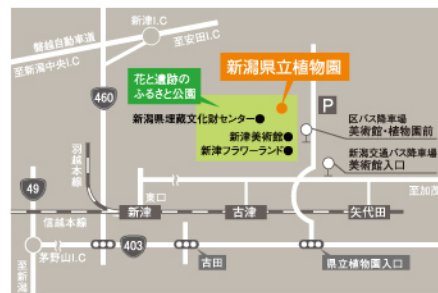
開館/9:30～16:30(入館締切16:00)
入館料/大人600円、シルバー(65歳以上)500円、小中学生100円
※土日祝日は小中学生の入館料無料です。

●観賞温室開館カレンダー(●休館日)

7							8							9						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4	・	・	・	・	・	・	1	・	・	1	2	3	4	5
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
26	27	28	29	30	31	・	23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	・	・	・

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路/磐越自動車道新潟ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路/(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
J R/信越線古津駅から徒歩約20分
バス/区バス:新潟駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通:新潟駅東口から「矢代田経由白根・潟東営業所」行き
「新潟美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 財団法人 新潟県都市緑花センター

